(様式第1号)

研究No. (記載不要)	19 ―学長― 8

平成19年度配分 研究成果の概要

研究名	ネット販売の教育的可能性に関する研究				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費　重点テーマ 1)技術と文化の融合　1760 千円				
研究者氏名(代表者)	学部名(研究科名)	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	メディア造形学科	講師	和田 和美	システム構築検証 WEB教育への応用
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	坂本 鐵司	生産造形系成果の適用可能性検証
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居 厚夫	空間造形系成果の適用可能性検証
	デザイン学部	生産造形学科	准教授	山本 一樹	生産造形系成果の適用可能性検証
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	佐藤 聖徳	メディア造形系成果の適用可能性検証
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	羽田 隆志	情報配信系サービスの可能性研究
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	的場 ひろし	情報配信系サービスの可能性研究

発表の方法(予定で可)	①紀要	号数	第 9 号 (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:	発表日(発表予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:	発表日(発表予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

（研究の目的等）

本研究は、本学における研究成果のアピール手段の一つとして、ネットショップが果たす役割を考察し、試作検証等を通じて商品像を検討、提案し、大学の「ネットショップ開業にいたる準備検討のプロセス」「ネットショップ実現のための諸開発」「ネットショップ運営」の各フェイズを実践的に学ぶことで、本では学べない各種ノウハウや、運用上の留意点を体得することのできる、教育システムの構築可能について、調査及び検証実験を行い、本学で備えるべき実践的な基盤の形態を提案することを最終目的として、スタートしたものである。
また、ネットショップに関する潜在的需要を持つ、浜松、静岡の地元企業に対して、実践的なアドバイス、コンサルテーションを行うための、ノウハウの蓄積、システム基盤の構築を行うことで、地元の貢献にも役立てるねらいも持っている。

（研究の実施方法等）

ネットショップの運用事例として、大学、公共団体のネットショップを調査する。調査結果を検討した上で、教員と学生の運営分担、各種サークルとの関連性、また学友会との協力関係等を考慮に入れて、本学において永続的に運営できるネットショップ形態、システム構成の可能性検証、提案を行う。
またこれらの活動を通して得た知識や、構築した検証システムは、WEB 教育カリキュラムへ効果的に反映させる。また、本学の成果の告知、流通の場としてのネットショップで扱うべき、商品検討も行う。候補としては、本学講義資料などの出版、海外の未翻訳の学術書（デザイン理論）和訳、その他地域の各種企業との連携による新規商品（文房具、楽器等々）があげられる。
本研究の一年目である平成19年度は、ネットショップ開業準備として調査・研究を中心に行う。

1）大学が運営するネットショップ・システムの検証
2）本学学生・関係者と連携した商品開発プロセスの検証
3）地域と連携した商品開発の可能性の検証

まず、一番大きな課題として、大学が経営する販売システムの方法を探り、問題点を明らかにする。既存の大学が経営するケースとして、東京大学や立教・早稲田大学のネットショップ等をリサーチし、本学が経営する公式のネットショップの方向性と構築方法を考察する。また、ネットショップが立ち上がった後、業者等に委託するのではなく、OB会や学生サークルなどと連携して、永続的にメンテナンスし、更新・運営していく方法を具体的に固める。
一方、商品開発面では、既存の学生・教授の制作物やアイデアを元に、具体的に商品化できる物と、商品化する取引業者を選定し、効率良く製品化するプロセスを考察するのと併行して、本学内で商品アイデアを募る方法も検討する。

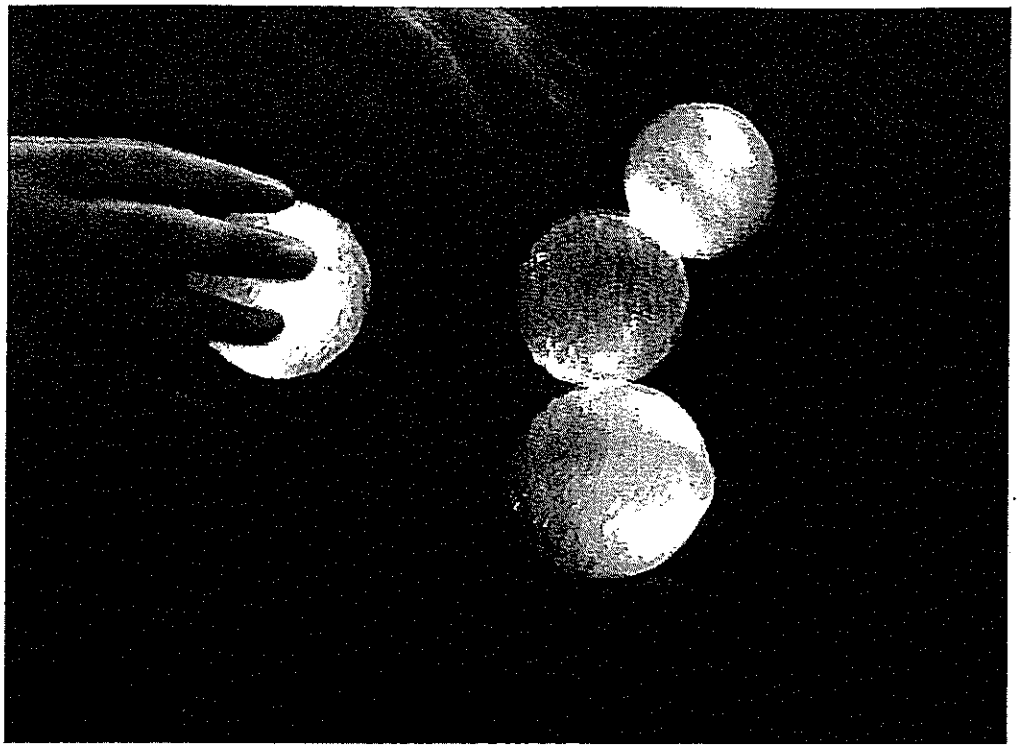
（得られた成果等）

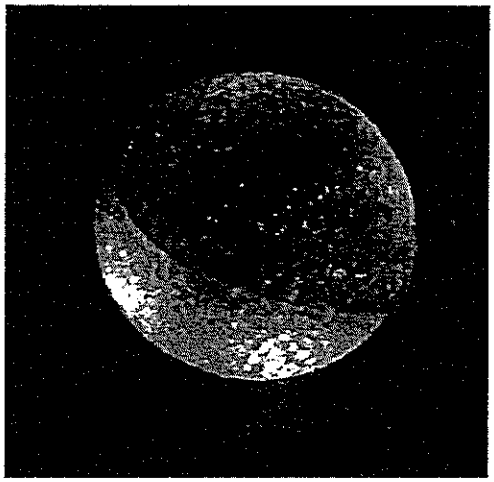
本年度は、ネットショップそのものの形態の検証では、半官半民の大学であること、デザイン学部があることを中心に、主に現行の大学が持つネットショップや美術館のミュージアム・ショップのリサーチを行った。結果、量販店のような品物数は必要なく、ユニークな商品を選び、集める形態が最適であるということになり、美術館のミュージアム・ショップのような、セレクトショップ的な形態を目指す方向性が決められた。
併行して行った、売る商品の選択・開発は基本的に、
A.　ユニバーサル・デザイン関係
B.　教員開発のアイデアグッズ
C.　地場産業・地元企業とのコラボレーション
D.　学生企画
E.　学生制作絵本
というラインナップの方向性で検討してきた。以下は個々に成果・進捗状況を解説していく。

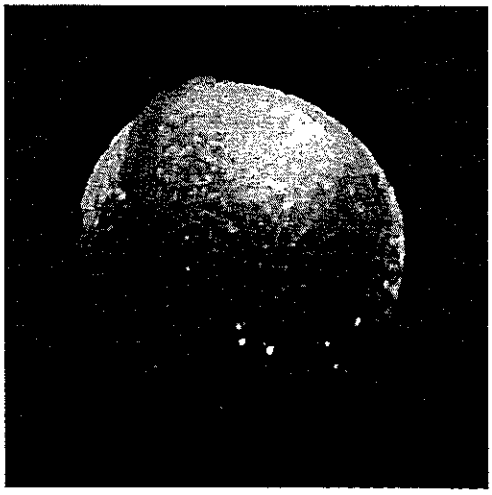
A:「ユニバーサル・デザイン」関係
●自助具制作窓口
共同研究者の坂本先生が推進している「自助具」があるが、リサーチの結果、本来マンツーマンで一人一人のニーズに合わせて制作する自助具の意義から考えると、商品化というより、ニーズと、制作してくれる地元企業との橋渡しとして、ネットショップに窓口を設ける方向性が検討された。

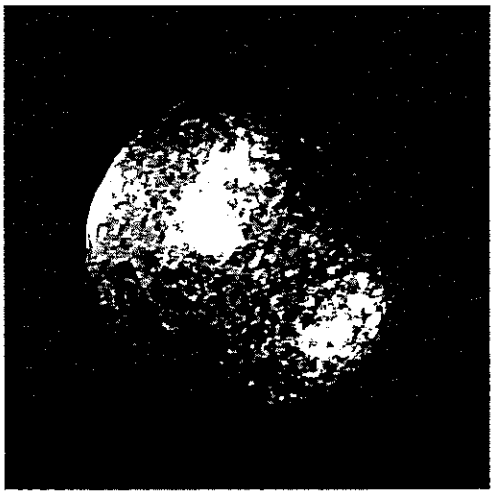
●ドイツ身障者ドキュメンタリービデオの日本語版作成
身障者向けというものでは、同上坂本先生より推薦いただいたドイツ制作の身障者ドキュメンタリーDVD(30 分・2本)があり、これを日本語版として販売できるか検討している。平成 19 年度は、ドイツ語を日本語に翻訳するために、ナレーションの書き起こし作業を行った。本編はミュンヘンで制作されていることもあり、南特有のイントネーションがあることから通常の翻訳に支障がないよう、書き起こしではそのままの状態と、Deutlich＝標準語の状態と、2種類×2本で作業してもらった。作業の窓口としてドイツ現地の日本人コーディネイターに適任者への発注を依頼し、ドイツ人が書き起こしてもらった。

B:教員開発のアイデアグッズ
●音球
共同研究者の的場先生の授業において、学生がアイデアを作り制作する中で派生したものを実用化してみようという検討がされた。試作は、静岡県の企業でかつて「たまごっち」を実質制作した、電子おもちゃやプログラム等の制作会社「テクノサイト」に依頼し、制作してもらった。「音球」は、手に収まるサイズのゴムボールが、振動で光と音を発するというもの。試作では、4つ制作してもらった。各音階で色違いにしてバリエーションを持たせたこのアイデアは、未だ制作しているものがない点で、ユニークな商品になる可能性がある一方、掌の中に全てを収めてかつ振動に強い必要があるなど、物理的な懸案事項もいくつか浮上している。「テクノサイト」との実質的なやりとりは、的場先生がメインとして行っている。またBの教員開発ということで上げているが、「テクノサイト」が地元静岡県であるので、C の「地元企業とのコラボレーション」という面もある。







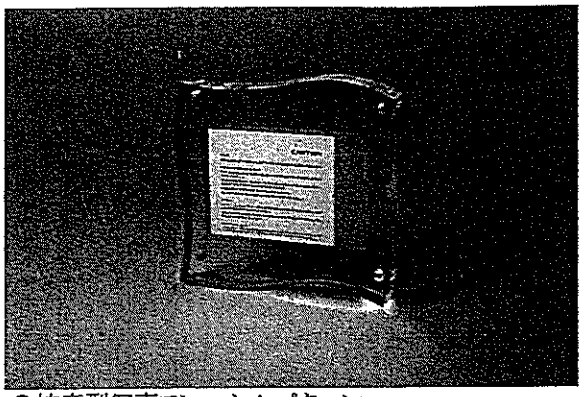


●「音球」試作した4色・4音

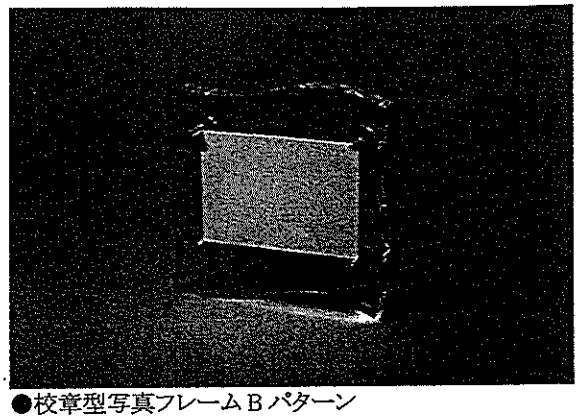
C:地場産業・地元企業とのコラボレーション

●校章型写真フレーム

TV でも紹介された、アクリルを扱った雑貨制作会社である「AirFrame」は、雑貨制作業界でもユニークな存在で、地元の浜松の企業だが、最近では東京に進出し、ファッションブランドへのグッズ企画営業など、赤丸急上昇の注目地元企業である。就職情報交換会において初めて名刺交換し、新規開拓、企画依頼した。「セレクトショップ」としての SUAC ブランド商品の企画制作に参画してもらい、「本学の校章を形どった写真フレーム」というアイデアはこちらが出したが、アクリルの厚みや、写真をどうはさむかといったような形態の企画・デザインは「AirFrame」の方で5パターン程制作した。本年度では、そのうちの2つのデザインを試作してもらった。



●校章型写真フレーム A パターン



●校章型写真フレーム B パターン

D:学生企画

●学内公募アイデアの選出

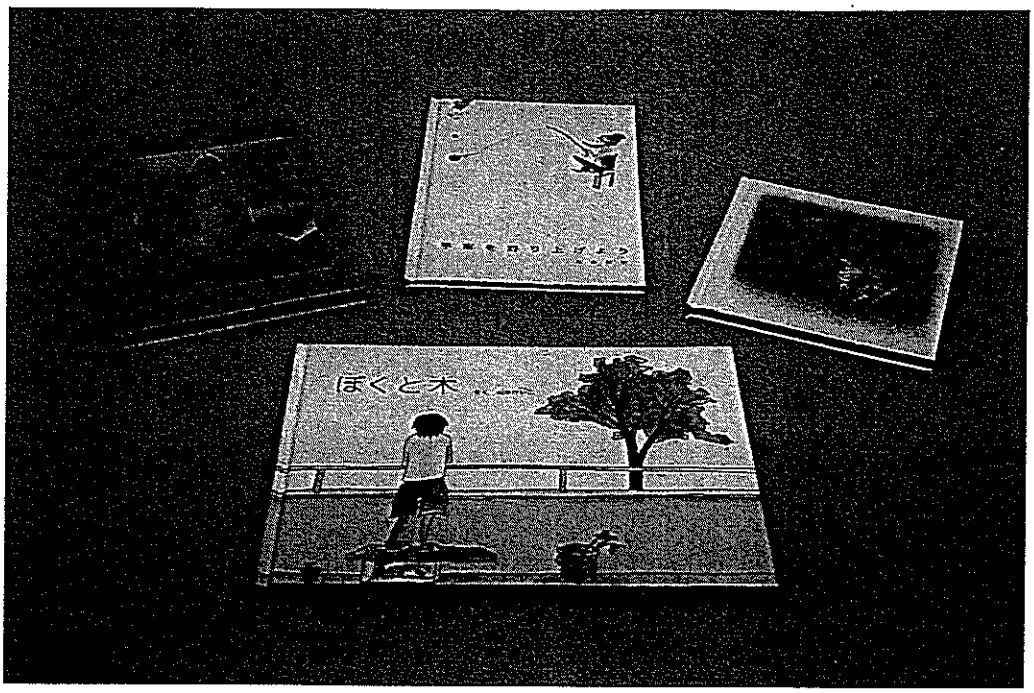
本研究の代表研究者、和田が担当する後期の企画立案総合演習において、2年生に「ユニバーシティ・グッズ」に関する企画を促したところ、4チーム中3組が企画することになり、そのうち1組が学内公募において「SUAC グッズのアイデア」を募ったところ、37 点ほど集まった。共同研究者の坂本先生にも審査を依頼し、「実際に商品として制作できる」ことを観点として以下の5点を選出してもらった。また今後の企画・制作には、公募を企画した学生たちが参画していく。

1. エコバッグ
2. SUAC 傘
3. うなぎまん
4. 校章型マウスパッド
5. ポストイット

E:学生制作絵本

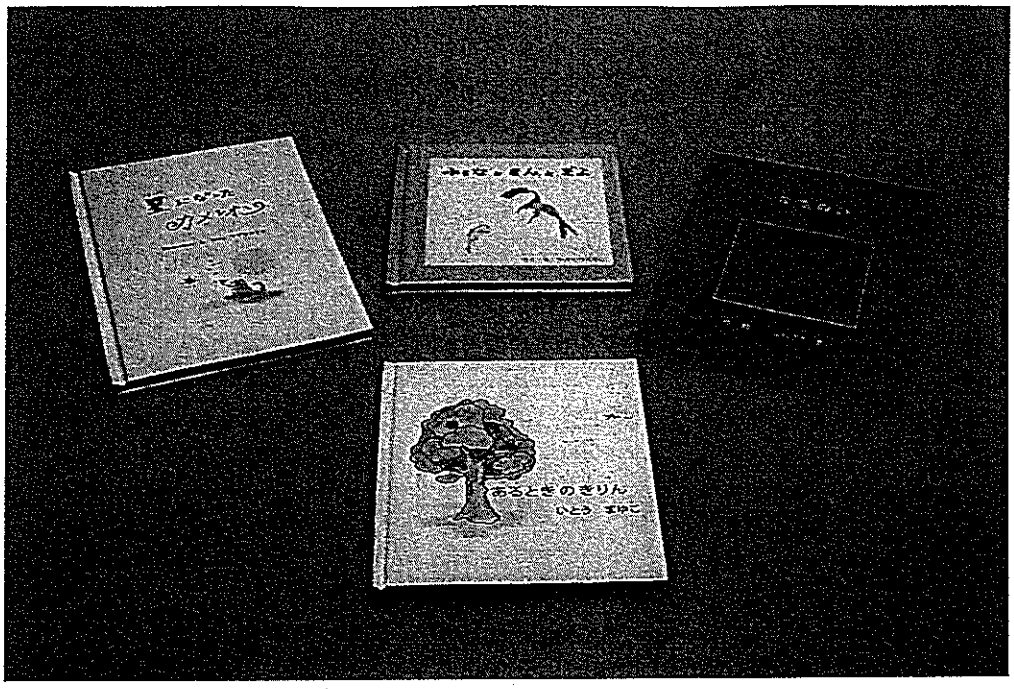
●手作り絵本

メディア造形学科の学生有志が、3年前より碧風祭での展示を目指して絵本制作していた。碧風祭において「絵本喫茶」と題して行われた展示は、2年連続して人気投票1位を獲得したり、鈴木常務の計らいで地元の小学校などを制作した学生が訪問し、絵本の読み聞かせするなど派生していったことから、地元メディアに毎回取り上げられ、本学をアピールすることにも一役買っていたわけだが、本研究ではまさしく商品として取り上げる価値があると思い、試作の製本に至った。計 11 冊試作した中には、一部仕掛けがあるページがあり、製本からさらに加工する必要がある。次年度には、この作業を、地元の障害者・高齢者の労働に還元する方法で賄うことを検討している。



手作り絵本A(上段左から)
●1「雨の街」土屋 香乃
●2「宇宙を釣り上げよう」山本 景子
●3「ぼくのねがい」伊藤 かおり
●4「ぼくと木」山本 景子(前)

手作り絵本B
●5「いたずらねこのかくれんぼ」平松 祐乃
●6「ぼくのラジオ」神谷 裕子
●7「どうぶつさんだーぁれ?」神谷 裕子



手作り絵本 C(上段左から)
●8「星になったカメレオン」鈴木 美里
●9「ふうなときんとぎょ」山口 恵理子
●10「夜空の詩」白坂 愛
●11「あるときのきりん」伊藤 麻友子(前)

全 11 種×10 冊＝計 110 冊製本試作